

2

[千葉大]

$z = \cos \frac{2\pi}{7} + i \sin \frac{2\pi}{7}$  ( $i$  は虚数単位)とおく。

- (1)  $z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5 + z^6$  を求めよ。
- (2)  $\alpha = z + z^2 + z^4$  とするとき,  $\alpha + \bar{\alpha}$ ,  $\alpha\bar{\alpha}$  および  $\alpha$  を求めよ。ただし,  $\bar{\alpha}$  は  $\alpha$  の共役複素数である。
- (3)  $(1-z)(1-z^2)(1-z^3)(1-z^4)(1-z^5)(1-z^6)$  を求めよ。

3

[東北大]

多項式  $P(x)$  を,  $P(x) = \frac{(x+i)^7 - (x-i)^7}{2i}$  により定める。ただし,  $i$  は虚数単位とする。以下の問いに答えよ。

- (1)  $P(x) = a_0x^7 + a_1x^6 + a_2x^5 + a_3x^4 + a_4x^3 + a_5x^2 + a_6x + a_7$  とするとき, 係数  $a_0, \dots, a_7$  をすべて求めよ。
- (2)  $0 < \theta < \pi$  に対して,  $P\left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta}\right) = \frac{\sin 7\theta}{\sin^7\theta}$  が成り立つことを示せ。
- (3) (1)で求めた  $a_1, a_3, a_5, a_7$  を用いて, 多項式  $Q(x) = a_1x^3 + a_3x^2 + a_5x + a_7$  を考える。  $\theta = \frac{\pi}{7}$  として,  $k = 1, 2, 3$  について,  $x_k = \frac{\cos^2 k\theta}{\sin^2 k\theta}$  とおく。このとき,  $Q(x_k) = 0$  が成り立つことを示し,  $x_1 + x_2 + x_3$  の値を求めよ。

4

[東京大]

$z$  を複素数とする。複素数平面上の 3 点  $A(1)$ ,  $B(z)$ ,  $C(z^2)$  が鋭角三角形をなすような  $z$  の範囲を求め、図示せよ。

5

[広島大]

複素数平面上を、点 P が次のように移動する。

1. 時刻 0 では、P は原点にいる。時刻 1 まで、P は実軸の正の方向に速さ 1 で移動する。移動後の P の位置を  $Q_1(z_1)$  とすると、 $z_1 = 1$  である。
2. 時刻 1 に P は  $Q_1(z_1)$  において進行方向を  $\frac{\pi}{4}$  回転し、時刻 2 までその方向に速さ  $\frac{1}{\sqrt{2}}$  で移動する。移動後の P の位置を  $Q_2(z_2)$  とすると、 $z_2 = \frac{3+i}{2}$  である。
3. 以下同様に、時刻  $n$  に P は  $Q_n(z_n)$  において進行方向を  $\frac{\pi}{4}$  回転し、時刻  $n+1$  までその方向に速さ  $\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n$  で移動する。移動後の P の位置を  $Q_{n+1}(z_{n+1})$  とする。ただし  $n$  は自然数である。

$\alpha = \frac{1+i}{2}$  として、次の問いに答えよ。

- (1)  $z_3, z_4$  を求めよ。
- (2)  $z_n$  を  $\alpha, n$  を用いて表せ。
- (3) P が  $Q_1(z_1), Q_2(z_2), \dots$  と移動するとき、P はある点  $Q(w)$  に限りなく近づく。 $w$  を求めよ。
- (4)  $z_n$  の実部が(3)で求めた  $w$  の実部より大きくなるようなすべての  $n$  を求めよ。

6

[筑波大]

複素数平面上を動く点  $z$  を考える。次の問いに答えよ。

- (1) 等式  $|z-1|=|z+1|$  を満たす点  $z$  の全体は虚軸であることを示せ。
- (2) 点  $z$  が原点を除いた虚軸上を動くとき、 $w = \frac{z+1}{z}$  が描く図形は直線から 1 点を除いたものとなる。この図形を描け。
- (3)  $a$  を正の実数とする。点  $z$  が虚軸上を動くとき、 $w = \frac{z+1}{z-a}$  が描く図形は円から 1 点を除いたものとなる。この円の中心と半径を求めよ。

2

[千葉大]

(1)  $z = \cos \frac{2\pi}{7} + i \sin \frac{2\pi}{7}$  に対して,  $z^7 = \cos 2\pi + i \sin 2\pi = 1$  となり,

$$z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5 + z^6 = \frac{z(z^6 - 1)}{z - 1} = \frac{z^7 - z}{z - 1} = \frac{1 - z}{z - 1} = -1$$

(2)  $\alpha = z + z^2 + z^4$  とするとき,  $\bar{\alpha} = \bar{z} + \bar{z}^2 + \bar{z}^4 = z^6 + z^5 + z^3$

$$\alpha + \bar{\alpha} = z + z^2 + z^4 + z^6 + z^5 + z^3 = -1$$

$$\alpha \bar{\alpha} = (z + z^2 + z^4)(z^6 + z^5 + z^3)$$

$$= z^7 + z^6 + z^4 + z^8 + z^7 + z^5 + z^{10} + z^9 + z^7$$

$$= 3 + z^6 + z^4 + z + z^5 + z^3 + z^2$$

$$= 3 - 1 = 2$$

よって,  $\alpha, \bar{\alpha}$  は 2 次方程式  $x^2 + x + 2 = 0$  の解より,

$$x = \frac{-1 \pm \sqrt{7}i}{2}$$

そして,  $\alpha$  の虚部は  $\bar{\alpha}$  の虚部より大きいので,  $\alpha = \frac{-1 + \sqrt{7}i}{2}$  である。

(3)  $x^7 = 1$  の解は,  $x = 1, z, z^2, z^3, z^4, z^5, z^6$  より,

$$x^7 - 1 = (x - 1)(x - z)(x - z^2)(x - z^3)(x - z^4)(x - z^5)(x - z^6)$$

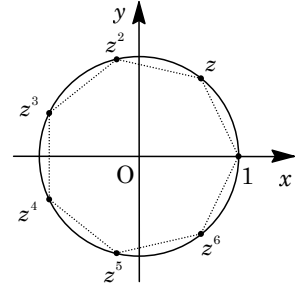
そして,  $x^7 - 1 = (x - 1)(x^6 + x^5 + x^4 + x^3 + x^2 + x + 1)$  より,

$$x^6 + x^5 + x^4 + x^3 + x^2 + x + 1$$

$$= (x - z)(x - z^2)(x - z^3)(x - z^4)(x - z^5)(x - z^6) \cdots \cdots (*)$$

(\*)に  $x = 1$  を代入すると,

$$(1 - z)(1 - z^2)(1 - z^3)(1 - z^4)(1 - z^5)(1 - z^6) = 7$$



### [解説]

1 の  $n$  乗根に関する超有名問題です。解答例に示した図がすべてと言っても構わない内容です。

3

[東北大]

$$(1) P(x) = \frac{(x+i)^7 - (x-i)^7}{2i} = \frac{2({}_7C_1x^6i + {}_7C_3x^4i^3 + {}_7C_5x^2i^5 + i^7)}{2i}$$

$$= \frac{7ix^6 - 35ix^4 + 21ix^2 - i}{i} = 7x^6 - 35x^4 + 21x^2 - 1$$

ここで、 $P(x) = a_0x^7 + a_1x^6 + a_2x^5 + a_3x^4 + a_4x^3 + a_5x^2 + a_6x + a_7$  から、

$$a_0 = a_2 = a_4 = a_6 = 0, \quad a_1 = 7, \quad a_3 = -35, \quad a_5 = 21, \quad a_7 = -1$$

(2) ド・モアブルの定理を用いると、

$$P\left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta}\right) = \frac{1}{2i} \left\{ \left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta} + i\right)^7 - \left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta} - i\right)^7 \right\}$$

$$= \frac{1}{2i \sin^7\theta} \{ (\cos\theta + i \sin\theta)^7 - (\cos\theta - i \sin\theta)^7 \}$$

$$= \frac{1}{2i \sin^7\theta} \{ (\cos 7\theta + i \sin 7\theta) - (\cos 7\theta - i \sin 7\theta) \}$$

$$= \frac{2i \sin 7\theta}{2i \sin^7\theta} = \frac{\sin 7\theta}{\sin^7\theta} \dots\dots\dots (*)$$

(3)  $P(x) = a_1x^6 + a_3x^4 + a_5x^2 + a_7$ ,  $Q(x) = a_1x^3 + a_3x^2 + a_5x + a_7$  より、 $x > 0$  で、

$$Q(x) = P(\sqrt{x})$$

さて、 $\theta = \frac{\pi}{7}$  のとき  $\frac{\cos\theta}{\sin\theta} > 0$ ,  $\frac{\cos 2\theta}{\sin 2\theta} > 0$ ,  $\frac{\cos 3\theta}{\sin 3\theta} > 0$  から、(\*)を用いて、

$$Q(x_1) = Q\left(\frac{\cos^2\theta}{\sin^2\theta}\right) = P\left(\left|\frac{\cos\theta}{\sin\theta}\right|\right) = P\left(\frac{\cos\theta}{\sin\theta}\right) = \frac{\sin 7\theta}{\sin^7\theta} = \frac{\sin \pi}{\sin^7\theta} = 0$$

$$Q(x_2) = Q\left(\frac{\cos^2 2\theta}{\sin^2 2\theta}\right) = P\left(\left|\frac{\cos 2\theta}{\sin 2\theta}\right|\right) = P\left(\frac{\cos 2\theta}{\sin 2\theta}\right) = \frac{\sin 14\theta}{\sin^7 2\theta} = \frac{\sin 2\pi}{\sin^7 2\theta} = 0$$

$$Q(x_3) = Q\left(\frac{\cos^2 3\theta}{\sin^2 3\theta}\right) = P\left(\left|\frac{\cos 3\theta}{\sin 3\theta}\right|\right) = P\left(\frac{\cos 3\theta}{\sin 3\theta}\right) = \frac{\sin 21\theta}{\sin^7 3\theta} = \frac{\sin 3\pi}{\sin^7 3\theta} = 0$$

さらに、 $x_1 = \frac{1}{\tan^2 \frac{\pi}{7}}$ ,  $x_2 = \frac{1}{\tan^2 \frac{2\pi}{7}}$ ,  $x_3 = \frac{1}{\tan^2 \frac{3\pi}{7}}$  なので、 $x_1, x_2, x_3$  は互いに

異なる。よって、 $x_1, x_2, x_3$  は 3 次方程式  $Q(x) = 0$  の異なる 3 つの解となり、

$$x_1 + x_2 + x_3 = -\frac{a_3}{a_1} = 5$$

### [解説]

一見、複素数の難問という構成ですが、細かな誘導のため、それに従えば最後の結論まで導けるようになっていきます。ただ、いろいろな定理が絡んでいますが。

4

[東京大]

3点  $A(1)$ ,  $B(z)$ ,  $C(z^2)$  に対し,  $\triangle ABC$  は鋭角三角形より, まず  $z \neq 1$  かつ  $z^2 \neq z$  かつ  $z^2 \neq 1$  より,

$$z \neq 0, z \neq \pm 1$$

さて,  $\angle CAB < \frac{\pi}{2}$  から,  $-\frac{\pi}{2} < \arg \frac{z^2 - 1}{z - 1} < \frac{\pi}{2}$  となり,

$$-\frac{\pi}{2} < \arg(z + 1) < \frac{\pi}{2}, \quad -\frac{\pi}{2} < \arg\{z - (-1)\} < \frac{\pi}{2}$$

すると,  $z$  は点  $-1$  を通り実軸に垂直な直線の右側にある。

次に,  $\angle ABC < \frac{\pi}{2}$  から,  $-\frac{\pi}{2} < \arg \frac{z^2 - z}{1 - z} < \frac{\pi}{2}$  となり,  $-\frac{\pi}{2} < \arg(-z) < \frac{\pi}{2}$

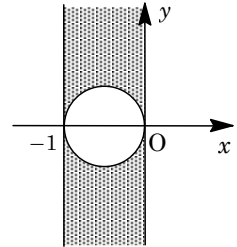
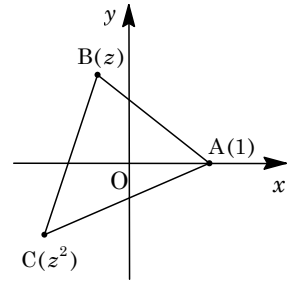
すると,  $-z$  は虚軸の右側にあるので,  $z$  は虚軸の左側にある。

さらに,  $\angle BCA < \frac{\pi}{2}$  から,  $-\frac{\pi}{2} < \arg \frac{z - z^2}{1 - z^2} < \frac{\pi}{2}$  となり,

$$-\frac{\pi}{2} < \arg \frac{z}{1 + z} < \frac{\pi}{2}, \quad -\frac{\pi}{2} < \arg \frac{0 - z}{-1 - z} < \frac{\pi}{2}$$

すると,  $z$  は原点と点  $-1$  を直径とする円の外部にある。

以上より,  $z$  の存在範囲は右図の網点部となる。ただし, 境界線は含まない。



[解説]

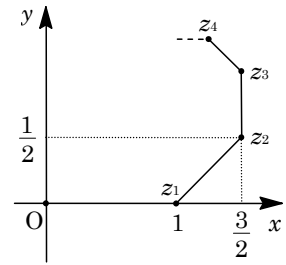
複素数平面についての問題です。鋭角三角形という条件を, 偏角の言葉に翻訳して処理をしました。なお, 余弦定理を利用する方法も考えられます。



5

[広島大]

- (1)  $\alpha = \frac{1+i}{2} = \frac{1}{\sqrt{2}} \left( \cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$  なので、点  $\alpha z$  は点  $z$  を原点回りに  $\frac{\pi}{4}$  回転し、原点との距離  $\frac{1}{\sqrt{2}}$  倍した点である。



すると、与えられた条件から、

$$z_{n+2} - z_{n+1} = \alpha(z_{n+1} - z_n) \cdots \cdots (*)$$

$$\begin{aligned} z_3 &= z_2 + \alpha(z_2 - z_1) = \frac{3+i}{2} + \frac{1+i}{2} \cdot \frac{1+i}{2} \\ &= \frac{3+i}{2} + \frac{i}{2} = \frac{3+2i}{2} \end{aligned}$$

$$z_4 = z_3 + \alpha(z_3 - z_2) = \frac{3+2i}{2} + \frac{1+i}{2} \cdot \frac{i}{2} = \frac{3+2i}{2} + \frac{-1+i}{4} = \frac{5+5i}{4}$$

- (2) (\*)より、 $z_{n+1} - z_n = (z_2 - z_1)\alpha^{n-1} = \frac{1+i}{2}\alpha^{n-1} = \alpha^n$  となり、 $n \geq 2$  で、

$$z_n = z_1 + \sum_{k=1}^{n-1} \alpha^k = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} \alpha^k = \sum_{k=0}^{n-1} \alpha^k = \frac{1-\alpha^n}{1-\alpha}$$

$n=1$  のときも成立するので、 $z_n = \frac{1-\alpha^n}{1-\alpha}$  である。

- (3)  $n \rightarrow \infty$  のとき  $|\alpha^n| = |\alpha|^n = \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \rightarrow 0$  より、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \alpha^n = 0$  となり、

$$w = \lim_{n \rightarrow \infty} z_n = \frac{1}{1-\alpha} = \frac{2}{1-i} = 1+i$$

- (4) (2)より、 $z_n = \frac{1-\alpha^n}{1-\alpha} = (1+i)(1-\alpha^n) = (1+i) \left\{ 1 - \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \left( \cos \frac{n}{4}\pi + i \sin \frac{n}{4}\pi \right) \right\}$

ここで、 $z_n$  の実部が  $w$  の実部 1 より大きくなることより、

$$1 - \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \cos \frac{n}{4}\pi + \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^n \sin \frac{n}{4}\pi > 1, \quad \sin \frac{n}{4}\pi - \cos \frac{n}{4}\pi > 0$$

すると、 $\sqrt{2} \sin\left(\frac{n}{4} - \frac{1}{4}\right)\pi > 0$  となるので、 $k$  を 0 以上の整数として、

$$2k\pi < \left(\frac{n}{4} - \frac{1}{4}\right)\pi < (2k+1)\pi, \quad 8k+1 < n < 8k+5$$

よって、 $n = 8k+2, 8k+3, 8k+4$  である

### [解説]

複素数平面上の点の移動を題材にした頻出問題です。現行課程で復活し、日も浅いためなのか、問題文の説明が度を超えた丁寧さです。

6

[筑波大]

- (1)  $|z-1|=|z+1|$ ……①に対して、左辺は点  $z$  と点 1 との距離、右辺は点  $z$  と点  $-1$  との距離を表す。

これより、①を満たす点  $z$  の全体は、点 1 と点  $-1$  を結ぶ線分の垂直二等分線、すなわち虚軸となる。

- (2)  $w = \frac{z+1}{z}$  ( $z \neq 0$ ) より、 $wz = z+1$  となり、 $(w-1)z = 1$  ……②

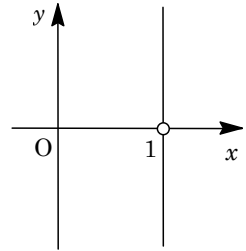
ここで、 $w=1$  とすると②は成立しないので、 $w \neq 1$  で  $z = \frac{1}{w-1}$  ……③

③を①に代入すると、 $|\frac{1}{w-1}-1|=|\frac{1}{w-1}+1|$  となり、 $|\frac{2-w}{w-1}|=|\frac{w}{w-1}|$  から、

$$\frac{|2-w|}{|w-1|} = \frac{|w|}{|w-1|}, \quad |2-w|=|w|$$

すると、点  $z$  が原点を除いた虚軸上を動くとき、点  $w$  は点 2 と点 0 を結ぶ線分の垂直二等分線、すなわち点 1 を通り実軸に垂直な直線上を動く。ただし  $w \neq 1$  から点 1 は除く。

図示すると、右図のようになる。



- (3)  $a > 0$  で  $w = \frac{z+1}{z-a}$  より、 $w(z-a) = z+1$  となり、 $(w-1)z = aw+1$  ……④

ここで、 $w=1$  とすると④は成立しないので、 $w \neq 1$  で  $z = \frac{aw+1}{w-1}$  ……⑤

⑤を①に代入すると、 $|\frac{aw+1}{w-1}-1|=|\frac{aw+1}{w-1}+1|$  となり、

$$\left| \frac{(a-1)w+2}{w-1} \right| = \left| \frac{(a+1)w}{w-1} \right|, \quad |(a-1)w+2| = |(a+1)w|$$

両辺を 2 乗して、 $|(a-1)w+2|^2 = (a+1)^2 |w|^2$  より、

$$\{(a-1)w+2\}\{(a-1)\bar{w}+2\} = (a+1)^2 w\bar{w}$$

$$4aw\bar{w} - 2(a-1)w - 2(a-1)\bar{w} = 4, \quad w\bar{w} - \frac{a-1}{2a}w - \frac{a-1}{2a}\bar{w} = \frac{1}{a} \dots\dots\dots⑥$$

⑥より、 $(w - \frac{a-1}{2a})(\bar{w} - \frac{a-1}{2a}) = \frac{1}{a} + \frac{(a-1)^2}{4a^2}$  となり、

$$\left| w - \frac{a-1}{2a} \right|^2 = \frac{(a+1)^2}{4a^2}, \quad \left| w - \frac{a-1}{2a} \right| = \frac{a+1}{2a}$$

よって、点  $z$  が虚軸上を動くとき、点  $w$  は中心  $\frac{a-1}{2a}$  で半径  $\frac{a+1}{2a}$  の円を描く。ただし、 $w \neq 1$  から点 1 は除く。

### [解説]

複素数平面上の変換を問う問題です。(1)において、まず①を変形して、 $z + \bar{z} = 0$  という関係を導き、この式をもとに(2)、(3)を解くという方法もあります。